

縄文の美と心
いもじや
鑄物師屋遺跡

ロハスな縄文文化

1万2千年以上もの昔、氷河期が終わり人々は豊かな森や四季のもく、現在のわたしたちの暮らしの基本をほぼ完成させます。それが縄文文化です。土を焼いて鍋を作ることを発明したことで、料理のレパートリーが格段に増え、自然と上手に付き合いつながりムラをつくり定住します。

最近「スローライフ」だとか、「ロハス」という言葉をよく耳にします。ロハスとは「健

康と持続可能な社会に配慮したライフスタイル」といった意味になるようですが、それって実は「縄文時代の暮らし」そのものなのです。現代の人々が求める、自然との共生やリサイクルな暮らしをすでに行っていたのです。

日本縄文文化の「顔」

南アルプス市には日本の縄文文化を代表する遺跡があります。

檜形地区下市之瀬にある鑄物師屋遺跡は、平成4年・5年に工業団地の造成のために発掘調査が行われ、縄文時代中期中葉（約4,500年ほど前）のムラの跡が発見されました。ムラの真中には広場がつけられ、その周りを囲むように30軒ほどの住居がめぐっていました。遺跡から出土した数万点の土器や石器、土偶のうち205点が縄文人の精神文化を知る貴重な資料として国の重要文化財に指定されました。

特に写真の「円錐形土偶」と「人体文様付有孔鐔付土器」の二つは、日本の文化を代表する資料として世界中の博物館で紹介され、様々な本の表紙を飾り、図鑑などにも多



えんすいけいどくろ
円錐形土偶 [高さ25.2cm 重要文化財]

円錐（えんすい）形のお腹をした土偶で縄文時代中期（約5,000～4,000年ほど前）になると、このような立体的な土偶が増えます。

大きく膨らんだお腹には左手が添えられ、右手は腰をおさえています。そう、妊婦さんがお腹の赤ちゃんのことを慈んでいる様子が描かれています。家族やムラの繁栄を願い、元気な赤ちゃんとお母さんの健康を祈ったのでしょう。鑄物師屋遺跡縄文人の愛情が伝わってきます。

じんたいもんようつきゆうこうつばつきどき
人体文様付有孔鐔付土器
[高さ54.4cm 重要文化財]

樽（たる）のような形をした土器に踊っているような姿の文様が描かれています。縁の下に鐔（つば）がつき、それに沿って孔（あな）があるこの土器は、果実酒を造るための酒造用容器とする説や、皮を張って太鼓にしたという説などがあり、いずれにしても祭りごとなどの特殊な道具とみられ、縄文人の精神世界を垣間見ることができます。



鑄物師屋遺跡から出土した縄文土器・土偶は、檜形生涯学習センターで展示公開中です。

鑄物師屋遺跡海外貸出歴

- 平成7年 イタリアローマ市立展示館
- 平成9年 マレーシア国立博物館
- 平成13年 イギリス大英博物館
- 平成14年 韓国国立中央博物館
- 平成18年 カナダ国立モントリオール博物館

縄文王国

YAMANAASHI

【スタンプラリー開催中】

県内7カ所の会場をめぐるプレゼントを当てよう！

南アルプス会場：檜形生涯学習センター
※8月31日（金）まで、台紙は各ラリー会場で配布しています。

※1 ロハス・・・「Lifestyle of health and sustainability」という英語の略